

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

Questionnaire results on exposure characteristics of pregnant women participating in the Japan Environment and Children Study (JECS)

和文タイトル:

エコチル調査における妊娠中の母親の曝露に関する質問票調査結果

ユニットセンター(UC)等名: コアセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Environmental Health and Preventive Medicine

年: 2018 月: 23 巻: 45 頁:

筆頭著者名: 岩井美幸

所属UC名: コアセンター

目的:

妊娠中の母親の環境曝露について、質問票で得られたデータを要約することを目的とした。

方法:

妊娠初期(MT1)および妊娠中後期(MT2)の2つの質問票を集計した。妊娠中の住環境、冷暖房設備、掃除頻度、寝具取扱い、居間床材、カビ・ダニ、ペット、屋外滞在時間、化学製品使用(有機溶剤、漂白剤、抗がん剤、農薬、除草剤、殺虫剤、撥水スプレー、日焼け止め等)、妊娠中の重い荷物の上げ下げおよび振動器具の扱い等を要約した。

結果:

MT1とMT2質問票の回答率は各々96.8%と95.1%であった。MT1およびMT2回答時の平均在胎週数(標準偏差)は、各々16.4(8.0)および27.9(6.5)週であった。職業上の化学物質使用に関して、MT1とMT2の同一質問の回答を比較した結果、そのカッパスコアは0.07~0.54(中央値0.31)であった。回答者の大部分は、木造戸建住宅または鉄骨集合住宅のいずれかに住んでいた。半数以上の回答者が住居内でカビの発生を報告し、家庭内で様々な種類の殺虫剤が使われていた。

考察:(研究の限界を含める)

職業上の化学物質使用についてMT1とMT2で同一の質問の回答を比較した結果、カッパスコアは0.61未満であり、回答の一致性は低く、妊娠経過に伴って化学物質の使用に変化があったと考えられる。本研究は、妊娠中の母親の質問票の回答による化学物質の使用等を集計したものであり、実際の体内の曝露レベルを反映しているかについては今後の課題である。

結論:

妊娠中の母親の環境曝露について、質問票で得られたデータを要約し、妊娠初期と中後期では、化学物質使用に変化がみられた。家庭では忌避剤や様々なタイプの殺虫剤が使用されていた。